

# 中国学園大学大学院

Chugoku Gakuen University Graduate School

## 入学案内2026

現代生活学研究科 人間栄養学専攻

子ども学研究科 子ども学専攻

# 現代生活学研究科 人間栄養学専攻



現代生活学研究科長  
井之川 仁 教授

## 見識を高め、地域社会に貢献できる 「食」と「健康」の高度専門家になる！

### プロフェッサーからのメッセージ *A Message from the Professor*

「食」と「健康」に大きな関心が持たれている今日、これらに関わる高度専門家の活躍に期待が寄せられています。大学院は、高度専門家の養成機関であると同時に、社会に開かれた研究機関でもあります。したがって、大学院生は、学部で修得した知識と技術をより深く究め、「研究」を通して、より高度で幅広い専門的知識と実用技術を修得し、なおかつ社会に貢献できるよう精進しなければなりません。自らの知的好奇心に基づいて、あるいは地域社会の要請に応じて問題点をみつけ、問題解決に向けて取り組み、その成果を地域社会に発信していきましょう。

### アドミッションポリシー *Admission policy*

本研究科では、食・栄養に関わる課題を科学的に探求することができる研究能力を有し、実践能力を地域社会において発揮し、社会に貢献する意欲のある人材を求めています。また、実社会において、医療、教育、地域サービス、産業振興等の場でさまざまな経験を有する人も積極的に受け入れます。



## 自分を磨き、高め、さらに一步前へ！

### 養成の目的

- 高度専門職業人となる
- 地域に貢献できる専門職業人となる
- 教育・研究専門職、あるいは博士課程へ進学する

### 課題研究・実践研究の内容

本研究科では、「実践研究」あるいは「課題研究」かのいずれかを指導教員の指導のもと完成させることを目標としています。

「実践研究」は3～6ヶ月間程度、管理栄養士がその専門性を生かして職務を遂行することが期待されている病院や企業等の施設において、専門的で実践的な手技・知識を習得しながら現場での問題点を発掘し、普遍的、実証的な答えを探究する研究です。

「課題研究」は、食・栄養に関わる直面する課題を設定しながら、新しい事実・事象の発見を目指して実験・調査を行い、得られた具体的なデータにもとづいた研究成果を、論理的・実証的に導き出し、発信する努力を行うものです。



学会発表

interview

本研究科では、研究の内容を学会で発表する機会を設けています。学会では各分野の専門家に自分の研究成果を聞いていただき、質問や講評をいただきます。研究自体も重要なプロセスですが、発表までの準備も高度専門職としてのスキルを身につける重要なステップです。

### 課題研究・実践研究例

#### ■ 女子学生の五基本味に対する味覚感性に関する研究

官能検査を手法に用いて、若い女性の味覚を把握するとともに、食習慣、色彩が味覚感性に与える影響を解明する。また、栄養素摂取量、食品群別摂取量が味覚感性に与える影響についても検討する。

#### ■ 増粘多糖類（ゲル化材料）の応用に関する研究

嚥下・咀嚼困難者用の食品の需要が増していることを背景として、多種多様な増粘多糖類などが使用されている。そこで、各種ゲル化材料の特質を把握し、より好ましい食品の開発を目的とする。

#### ■ 食品成分の免疫系に及ぼす影響に関する研究

培養細胞を用いて、食品成分の免疫細胞への影響について明らかにするとともに、その作用メカニズムの解明及びin vivoでの検証を行う。

#### ■ 女子大学生における身体組成と栄養素摂取量や食生活習慣との関連

女子大学生の栄養素摂取量の不足、エネルギー摂取量の過不足を評価し、体格、身体組成との関連を検討した。若年者のデータを活用し、生活習慣病の予防のために必要とされる早期の生活習慣の改善のための基礎データを提供する。

#### ■ 糖尿病患者に対する栄養指導の変化

栄養指導を1年間継続して実施し、指導開始前、開始3ヶ月後、6ヵ月後、9ヵ月後、1年後の変化を食事摂取量、生化学検査、血中脂肪酸、QOL、自己効力感などの変化について分析・検討を行う。

#### ■ 広汎性発達障害青年の自立を目指した健康料理教室とその成果の解析

広汎性発達障害青年が健康的な食事を理解し、実践できるスキルを身に付けることを目的とする健康料理教室を開催し、その手法や効果を検証する。

#### ■ 食品製造業、小売業等に勤務する管理栄養士の就業実態と必要とされる職能に関する研究

社会心理学的な手法を用いた管理栄養士の職能研究、あるいは食品関連産業におけるマーケティングに関する研究を行う。

# カリキュラム

## 履修モデルと学位取得後の進路



interview

栄養教諭になることを目指し、さらに詳しく専門分野の研究を深めるとともにスポーツ栄養の勉強にも取り組んでいます。大学院は教授との距離の近さや、論文や学会などで最新の情報にふれられることも魅力です。専門家として社会にどう貢献できるかを自問しながら日々学びを深めています。

大学で学んだ「食」と「健康」の専門知識をより高め、実用性や実践を主眼とした「実践研究」と、新たな食・栄養の知見を発見・創造する「課題研究」を融合させたカリキュラムにより、地域や社会に貢献できる高度専門職業人を育成します。修了後、教育・研究専門職、あるいは博士課程への進学も可能です。

### 就職先一覧

中国学園大学／赤平市立磐梨小学校／くらしき作陽大学／国立病院機構関門医療センター／山陽学園短期大学／自衛隊／村上脳神経外科内科／医療法人十字会野島病院

### 進学先

岡山大学大学院  
(博士課程)

## 科目・教員一覧

授業科目	担当教員	単位数	授業形態	修了要件
総合食品栄養学特論	オムニバス方式	2	講義	2
総合人間栄養学特論	オムニバス方式	2	講義	2
総合食品栄養学演習	オムニバス方式	1	演習	1
総合人間栄養学演習	オムニバス方式	1	演習	1
食品化学特論	大桑 浩孝 (博士 (理学))	2	講義	
食品化学演習	大桑 浩孝	1	演習	
代謝調節栄養学特論	赤木 収二 (医学博士)	2	講義	
代謝調節栄養学演習	赤木 収二	1	演習	
細胞栄養学特論	坪井 誠二 (博士 (薬学))	2	講義	
細胞栄養学演習	坪井 誠二	1	演習	
栄養生理学特論	井之川 仁 (博士 (医学))	2	講義	
栄養生理学演習	井之川 仁	1	演習	18
環境・食品微生物学特論	楠本 晃子 (博士 (理学))	2	講義	
環境・食品微生物学演習	楠本 晃子	1	演習	
健康栄養学特論		2	講義	
健康栄養学演習		1	演習	
病態栄養学特論	赤木 収二、古川 愛子 (博士 (学術))	2	講義	
病態栄養学演習	赤木 収二、古川 愛子	1	演習	
公衆衛生学特論		2	講義	
公衆衛生学演習		1	演習	
特別研究	各教員	8	実験・実習・実技	8

## 大学院修士課程

現代生活学研究科：Graduate School of Contemporary Life Science

人間栄養学専攻：Master Course of Nutrition

授与する学位：修士 (栄養学) Master of Nutrition

標準修業年限：2年

入学定員：5名／収容定員10名

取得資格：栄養教諭専修免許状 (1種免許状取得者に限る)

## 大学院博士後期課程

中国学園大学大学院・岡山県立大学大学院連携方式 後期 (博士) 課程：

Joint Program with Okayama Prefectural University Graduate School of Health and Welfare Science, Doctorate Course of Nutritional Science.

授与する学位：岡山県立大学から博士 (栄養学)

修業年限：3年

子ども学研究科

子ども学  
専攻

修士課程



## 高度な専門性を身に付けた教育者・保育者・研究者へ！

修業年限が2年間を越えた長期履修制度があります。また、昼間働いている人にも受講しやすいよう夜間開講についての相談にも応じます。

### 養成の目的

- 専修免許状を持った専門性の高い教育者・保育者になる（主に学部の卒業生）
- 現職で直面している課題を研究的に追究する実践者になる（主に現職の社会人）
- 深く幅広い知識と高い倫理観を備えた研究者になる

### 修士論文の内容

修士論文は、開講科目の「子ども学特別研究」において、研究指導教員が修了まで一貫して個別指導を行います。1年次の前半に、修士論文のテーマとして、学部の卒業生は、学部で学修した分野を更に深める課題や、興味・関心がある分野で新たに課題を設定します。現職の社会人は、勤務している学校、保育所、幼稚園、企業等で直面している学習や生活等に係る課題をテーマとして設定することができます。研究者を目指す人には、博士課程への進学を視野に入れたテーマについて助言します。1年次後半から研究計画に沿って研究を進め、データや資料を収集したり、分析したりしながら修士論文の執筆を進めます。

### 課題研究例

#### ■ 数学的活動の喜びを味わわせる小学校算数の学習指導の工夫

令和2年度から実施されている小学校学習指導要領では、算数科における「算数的活動」が「数学的活動」に変更された。数学的活動には、日常の事象を数理的に捉える過程と統一的・発展的に捉える過程があるが、その2つの過程を相互に関連付けた学習指導について追究する。

#### ■ 放課後児童クラブにおける非認知能力の育成

放課後児童クラブで過ごす時間は子どもの成長にとって非常に重要であり、自発性、主体性などの「非認知能力」を育成する機会である。様々な遊びや学習の経験を放課後児童クラブの中に組織することで、非認知能力の伸長についてルーブリックを作成して検討する。

#### ■ 児童の読みの力の評価及び指導に関する研究

子どもに求められている読みの力を考察し、その視座をもとに学習者の読みの反応を捉え得る教材（絵本・物語・説明文）や方法を検討する。考察した方法をもとに、授業を観察し、学習者の反応や、それをもとにした教師の指導の在り方を分析・考察する。

#### ■ 論理的思考力を培うための小学校におけるプログラミング教育に関する研究

小学校学習指導要領では、各教科においてプログラミング教育が行われる。そこで、諸外国におけるプログラミング教育の実情を調査した上で、我が国の教育に合致したプログラミング教育のカリキュラムを開発し、試行実践を通して評価する。

#### ■ 子どもの造形活動を通じた表現力に関わる研究

子どもが自己を表現し感性を発展させていく過程には、豊かな経験が必要とされる。自己表現の手段としての造形表現活動を、豊かな経験とする方法について検討する。

#### ■ 保育内容領域「言葉」の観点から捉えた児童文化財に関する研究

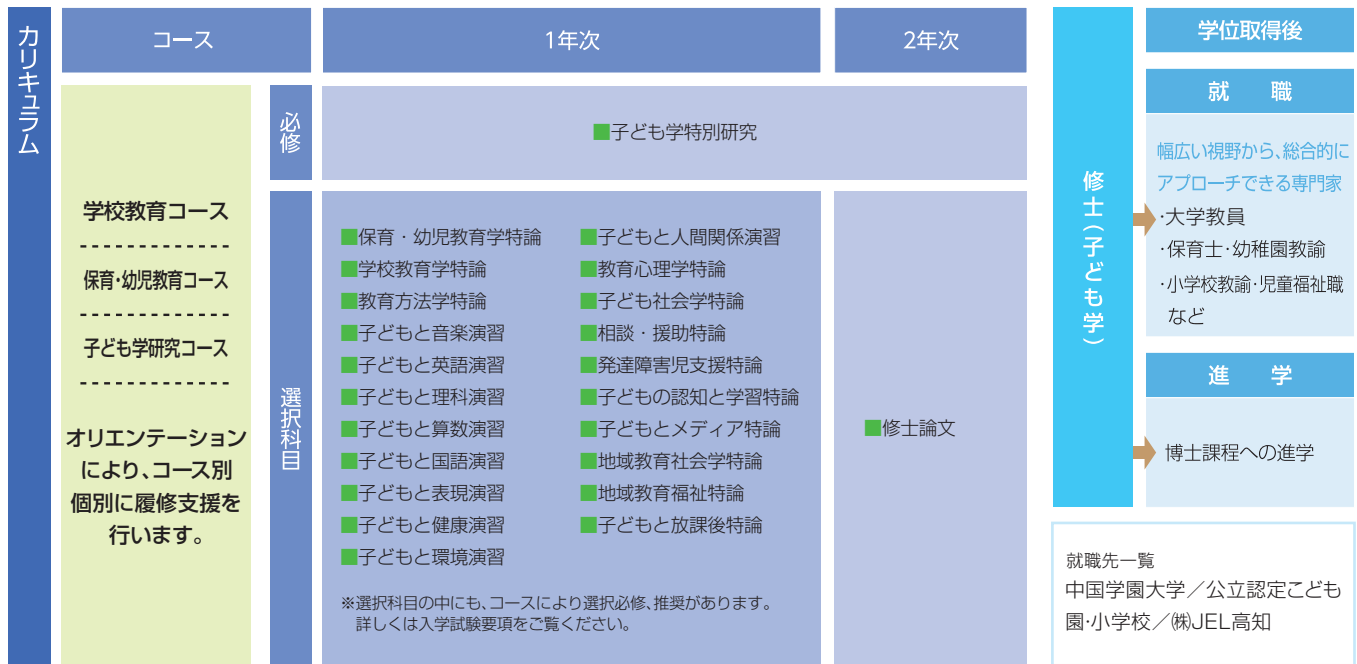
児童文化及び児童文化財は、子どもの生活そのものであり、子どもの育ちにとって重要であることは、周知である。言葉の育ちの観点から児童文化財について検討する。

#### ■ 保育士の保護者支援における感情労働のプロセス

保育園での保護者支援業務の過程において保育士が直面する葛藤や困難を、個別聞き取り調査を通して明らかにするとともに、感情労働という概念から検討・考察を加える。

# カリキュラム

## 履修モデルと学位取得後の進路



## 科目一覧

授業科目名	単位数	授業形態	修了要件
保育・幼児教育学特論	2	講義	修了要件 必修8単位
学校教育学特論	2	講義	
教育方法学特論	2	講義	
子どもと音楽演習	2	演習	
子どもと英語演習	2	演習	
子どもと理科演習	2	演習	
子どもと算数演習	2	演習	
子どもと国語演習	2	演習	
子どもと表現演習	2	演習	
子どもと健康演習	2	演習	
子どもと環境演習	2	演習	
子どもと人間関係演習	2	演習	
教育心理学特論	2	講義	選択22単位以上 計30単位以上
子ども社会学特論	2	講義	
相談・援助特論	2	講義	
発達障害児支援特論	2	講義	
子どもの認知と学習特論	2	講義	
子どもとメディア特論	2	講義	
地域教育社会学特論	2	講義	
地域教育福祉特論	2	講義	
子どもと放課後特論	2	講義	
子ども学特別研究	8	演習	

授業科目は変更することがあります。

## 大学院修士課程

- 子ども学研究科： Graduate School of Children Studies
- 子ども学専攻： Major in Children Studies
- 授与する学位： 修士（子ども学） Master of Children Studies
- 標準修業年限： 2年
- 入学定員： 5名／収容定員10
- 取得資格： 小学校教諭専修免許状・幼稚園教諭専修免許状



「修士論文中間発表会の様子」

# 子ども学研究科 子ども学専攻



子ども学研究科長  
中 典子 教授

「子ども学」の特色を活かした多面的な研究方法を修得し、  
様々な課題に対応できる教育者・保育者・研究者を目指す！

## プロフェッサーからのメッセージ *A Message from the Professor*

「子ども学」とは、教育や保育に関する学問というこれまでの既成の概念を越えて、教育学、保育学、福祉学等からの学際的なアプローチによって多面的に子どもについて研究する比較的新しい学問領域です。

現代の子どもを取り巻く状況は、日々複雑さを増し、深刻化していますが、そこから派生する様々な課題に対応するために「子ども学」への期待が高まっています。子ども学専攻において、学部で培った学識を更に深めるとともに、教育・保育等の現場で直面する課題に対して多面的にアプローチする研究方法を修得し、様々な課題に対応できる教育者・保育者・研究者を目指しましょう。

## アドミッションポリシー *Admission policy*

大学で子ども学・教育学、保育学、福祉学等の学問領域における学識と技能を修得した人で、さらに子どもについての多面的な理解を深め、子どもの発達について探究し、課題を解決しようとする意欲をもった人を求めます。

将来、教育、保育、福祉等の領域の専門家として社会に貢献したいという志願者の意志を確認し、その実現に向けた基礎的・基本的な学力を備えている人を大学院生として受け入れます。学力は、課題に対する論述力で評価します。

